

とやま呉西圏域連携中枢都市圏の取組（第1期⇒第2期）イメージ

より暮らしやすい呉西圏域の形成

資料No.2

とやま呉西圏域の目指す将来像 「環日本海の中核拠点」

30万人の人口規模を維持
※2060年（令和42年）時点

第1期（H28～R2）主な取組・成果

中間評価
（H28～H30）

ア 圏域全体の経済成長のけん引

とやま呉西圏域共創ビジネス研究所運営事業（継続）

民間活力による住民サービスの向上と地元中小企業の活性化を図る。1期（H29）、2期（H30）修了生の新規事業着手率は8割（15名中12名）。

【研修の様子】



呉西観光誘客推進事業（継続）

北陸新幹線・新高岡駅を活用したツアー造成、シンガポールや台湾に向けたインバウンド事業を実施。

イ 高次の都市機能の集積・強化

高度な医療サービス連携事業（継続）

高岡市民病院・包括的がん医療センターに専門資格を有する看護師を配置。また、砺波総合病院への診療情報管理士配置及びがん相談支援センターへの専門資格を有する看護師を配置。これらにより、高岡・砺波の両医療圏において、がんに対する高度な医療サービスの提供を図る。

広域的公共交通ネットワーク強化事業（継続）

JR城端・水見線沿線公共交通網形成計画に基づく各種施策の展開や路面電車万葉線のICカード導入検討などを実施。

ウ 圏域全体の生活関連機能サービスの向上

呉西地区成年後見センター運営事業（継続）

平成31年4月に開設。成年後見制度の利用に関する相談、市民後見人の養成や市民後見人バンク（令和2年7月末時点での登録者数は49名）の運営などを行う。

〔内訳〕高岡市14、射水市13、水見市8、砺波市6、小矢部市5、南砺市3



【センターが入居する高岡市社会福祉協議会館】

こども福祉支援相互連携事業（継続）

平成29年4月から、こども医療費受給資格証を利用できる医療機関及び薬局を呉西圏域全体に拡大。1歳～中学3年生は、圏域内の保険医療機関等を受診した場合、窓口での金銭負担が不要。

地図情報デジタル航空写真共同撮影事業（継続）

各市で撮影していた航空写真を共同で委託。撮影に係る委託料約800万円を削減。

圏域全体の経済成長のけん引に著実に貢献

滞在人口の維持に一定の効果

圏域人口の社会動態は大きく転出超過 ↓ 各市が連携して様々な生活関連機能サービスの充実に向けていく必要がある

とやま呉西圏域の特長である

6市の水平連携を生かす

（高岡・射水・水見・砺波・小矢部・南砺）

各市の強みを生かした連携による圏域全体の発展に向けて **全ての市が主体的に**取組を進める。

※第2期では全市が1事業以上の事業実施主体市を担う予定
※継続する事業は新たな視点を加えて取組内容の見直しを検討

新たな潮流への対応

● S O C I A L I S M
● D I G I T A L T R A N S F O R M A T I O N
● 持続可能な開発目標（SDGs）の推進
● 5G等未来技術の活用

社会の変化に適應した新たな視点で取組を推進

● 「新しい生活様式」を取り入れた暮らし
● テレワークやオンライン会議等の働き方改革

つながりを強化

相互利用／圏域資源の活用

情報化／デジタル化

ア 圏域全体の経済成長のけん引

イ 高次の都市機能の集積・強化

ウ 圏域全体の生活関連機能サービスの向上

第1期事業を
深化・発展

呉西地区成年後見センター運営事業（継続）

相談業務、市民後見人養成講座実施（基礎研修）、フォローアップ研修、法人後見業務などを行う。

歴史文化の学び交流事業（新規）

圏域の歴史・文化を相互に学ぶ機会を創出し圏域住民の生涯学習の推進や文化振興を図るため、他市の学芸員を講師に招く交流講座の実施や合同企画の検討を行う。

公共施設マネジメント推進事業（継続）

施設の相互利用推進により圏域住民の利便性向上を図る。

ICT教育環境に関する調査・研究（新規）

専門家による講習会の開催や先進事例等の共有など、各市がICT教育環境を整備し、有効活用するための調査・研究を進める。

呉西圏域ポイントサービス事業（継続）

県公式スマートフォンアプリ「元気とやまかがやきウォーク」を活用し、健康づくりに無関心な世代を含めた圏域住民が、楽しみながら健康づくりを実践できるきっかけとなる取組を行う。

就業マッチング支援事業（継続）

Web説明会等新たな手法を取り入れたマッチング機会を創出する。

移住・定住トータルサポート事業（継続）

首都圏など現地での移住セミナーのみならず、オンラインセミナーも開催。関係人口の増加を図る。